すべては子どもたちの笑顔のために

東信教育事務所だより

響 ひびき

東信教育事務所
〒384-0006
小諸市与良町6-5-5
TEL.0267-31-0251
FAX.0267-31-0140

令和２年12月18日
No,７

鑑賞の時間。
古い古い、昔の絵。
500年も遠い過去からやってきて、
今、こうやって、わたしたちと目があって、
きっとずっと先にある未来でも、
別のだれかと出会い重なる。

来し方行く末。

ずっとずっと重なって来て行く出会い。
そこにはきっと、わたしたちだって含まれて。

響　第７号「来し方行く末」 －もくじー

１．授業改善へ向かうヒント ～子どもが考えたくなる導入～	Ｐ２
２．初任者研修　教師力向上研修Ⅲ ～ICT機器の活用 取り組んでいます～	Ｐ３
３．授業づくり・学級づくり研修会 ってどんな研修？	Ｐ４
４．特別支援学級の担任と通常の学級の担任との連携はどうやって？	Ｐ５
５．外国語教育オンライン研修会のお知らせ	Ｐ６
６．人権に視点をおいた ボッチャ体験の取組	Ｐ７

令和2年が終わります。
今年は、これまでとはちがった一年だったかもしれません。けれど、変わってしまったこともあれば、変わらなかったこともありました。
どんな日々でも、どんな状況でも、私たちは、出会いを重ね、出会いから考え、出会いから変わっていきました。そして、出会ってきたことすべてを含んで、私たちはまた、いつものように次の一歩を前に踏み出していきます。

東信教育事務所だより「響ひびき」これまでのバックナンバーはこちらからご覧になれます。
本誌掲載の実践などのより詳しい内容については，東信教育事務所までお問い合わせください。

授業から学ぶ
小学校・算数

授業改善へ向かうヒント~子どもが考えたくなる導入~
小３算数　「表とグラフ」

Ａ先生は、本時のねらいを「比べやすくわかりやすいグラフのかき方を考えることができる」とし、身の回りにある事象からデータを分類、整理する授業をつくりました。

授業が始まって１０分を経過したころ…。
なにやら、子どもたちが怒っています。
一体、何があったのでしょうか？

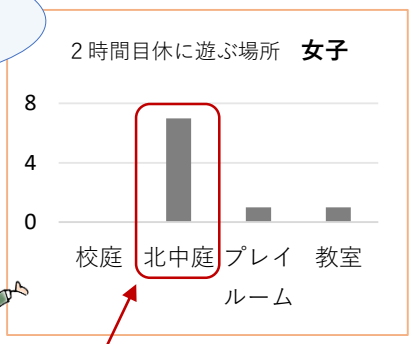
オー、だまされた！
ひどい！ だましたっ。

Ａ先生は、事前にとった「２時間目休みに遊ぶ場所アンケート」を男女別に集計し、男子の結果をかいたグラフを子どもたちに提示しました。

まずは男子からね。

やっぱり男子は北中庭が多い。
プレイルームは狭いからな。
女子は教室が多いんじゃない？

じゃあ、続いて女子。



「え！うそ！」「男子より多いじゃん…」
女子も１番多いのは北中庭。グラフを見ると、それは男子より多くいるように見えます。
そんな子どもたちに対してＡ先生は、男女それぞれの全人数を尋ねました。

男子は17人で…、
女子は９人……あ！！

何かに気づいた子どもたちに、Ａ先生はあらためて「北中庭で遊んでいるのは女子の方が多い？」と尋ねました。すると、
「少ない、少ない！」と悔しそうに答える子どもたち。そして「だまされた」に続いたのです。

Ａ先生の授業づくりと子どもたちの追究の姿

Ａ先生は、導入の場面において、あえて目盛りが異なるグラフを提示することで、比べにくさ、わかりづらさを、子どもたちに実感させ、グラフのかき方に生かせるよう授業構想されました。

「比べやすいようにつくれるかな」と問うＡ先生に対し、すぐさま「紙ください」と用紙を求めたり、「できそうかな」の声に「イメージかんぺき」と答えたりする子どもたちの追究が始まりました。Ｂ児は「比べやすくわかりやすいグラフ」にするために、今まで学習してきたことを最大限活用して、男女別のグラフの目盛りをそろえたり、遊ぶ人が多い場所順に並び替えたりしてグラフを完成させました。他にも男子と女子のグラフを横に並べたり上下に重ねたりするなど、二つのグラフを見やすく並べる工夫をする子どもたちの姿がありました。

Ａ先生の「やってみたい、何とかしたい」と追究意欲をもてる「考えたくなる導入」の工夫によって、比べやすくわかりやすいグラフ」をかくために最後まで追究し続けた子どもたち。グラフをかき終え、そのグラフを見ながら「カンペキ」とつぶやき、満足そうな顔をしている子どもたちの姿が印象的でした。

研修会の窓

初任者研修　教師力向上研修Ⅲ
～ＩＣＴ機器の活用　取り組んでいます～

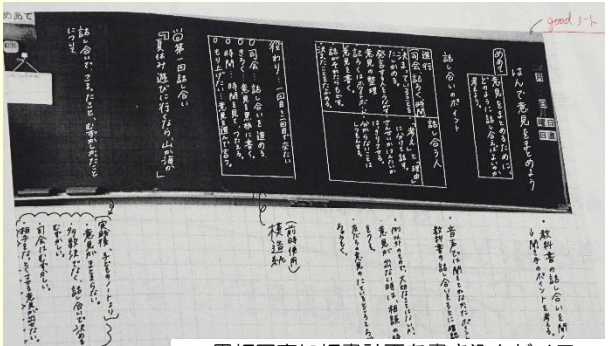
10月27日に行われた教師力向上研修Ⅲでは、２会場に分かれて参集し、特別支援教育の講義及び演習と日々の実践発表、１年間の自己課題の解決に向けた取組について、グループ討議を行いました。

初任の先生方の実践の中には、積極的にＩＣＴを活用した工夫も多く見られました。その活用例を紹介します。

板書計画にＩＣＴ機器を活用

Ｋ小学校のＹ先生は，日々の授業を構想し、板書計画を作成する際に，タブレット端末のノートアプリを使っています。黒板の写真を撮り、その上にペンを使って、板書計画をしています。Ｙ先生は、「ノートに書くより、実際の黒板をイメージして書けるので、私には合っているんです」と話していました。

同じグループの初任者の先生方は興味津々で、使い方等を質問していました。



黒板写真に板書計画を書き込んだメモ

授業での視覚支援にＩＣＴ機器を活用

Ｎ小学校のＯ先生は、日々の授業場面で、視覚支援として、タブレット端末を使って教科書などをテレビに映して提示しています。

Ｏ先生は「タブレット端末は、子どもに注目してほしい内容をテレビ画面に映してみんなで見ることができるよさと、さらに注目してほしい箇所に線を引いて、手軽に強調できるよさがあります。しかし、形に残らないのが悩みです。形に残り、わかりやすく提示できる方法をこれから考えていきたい」とＩＣＴ機器を使用しての悩みと、これからの課題を話していました。

初任者の声

今回の初任研で自分一人では思いつかないアイデアや工夫をみんなで考え合うことができました。ＩＣＴの活用は、今日いただいたアイデアを活用したり、学校のいろいろな先生に相談し、アドバイスをいただいたりしながら取り組んでいきたいと思います。

どの先生も、子どものためにどうしたらよいかという“子ども主体”という思いが土台であると感じました。日々悩みは尽きないですが、色々な先生とお話をして、子どものよさをいかした授業づくりやかかわり方を考えていきたいと思います。

初任の先生方の中には、日常的にＩＣＴ機器の利用を工夫して、子どもたちのよりよい学びにつなげようと取り組んでいる方もおられます。これらを参考に、各校で、これからどう活用していくか深めてみてはいかがでしょうか。東信教育事務所では、ＩＣＴに係る出前講座・学校訪問を行っています。ご活用ください。

研修会の窓

「授業づくり学級づくり研修会」ってどんな研修？
～子どもがいきいきと学ぶ授業・学級を目指して～

東信教育事務所では、臨任者、初任者、授業公開者など、希望するすべての先生を対象として、その先生の悩みや要望にあわせた授業づくりや学級づくりを考える研修会を開催しています。

基礎研修について

基礎研修は、参加者全員を対象とした全体研修です。毎回異なる観点から、どの子も自分らしく学ぶことのできる授業づくりや学級づくりの基盤を学び合える場としています。

第１回
子どもと一緒につくる授業
～基本の“き”～

「授業がもっとよくなる３観点」の「ねらい・めりはり・見とどけ」について、授業を振り返って考えました。

第２回
みんなの笑顔があふれる
学級づくりはどうしたらいいの

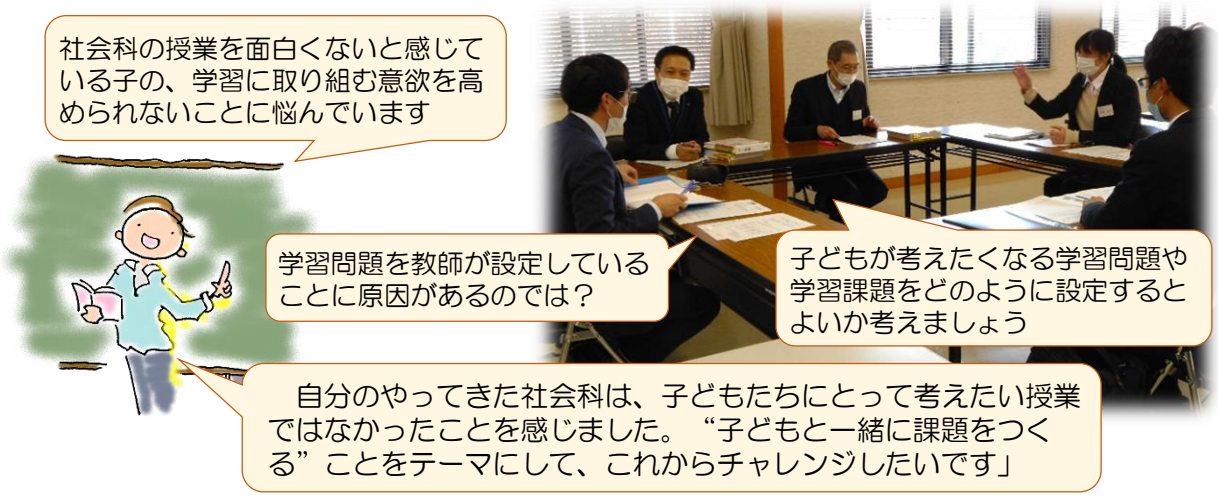
子どもたちの何気ない仕草や行動などから、私たちは子どもをどのようにとらえていくことが大切なのかを考えました。

第３回
授業づくりは学級づくり
～安心して学ぶための土台づくり～

支援を要する「困っている子」に対して、どのような支援ができるのかを具体的な姿から考えました。

教科等分科会について

教科等分科会では、希望する各教科・領域に分かれて、教科指導の工夫や日頃の悩みなどについて、他の参加者とともに考えていきます。



「悩んでいたことに1対1で一緒に考えていただきました」「目の前の子どもたちならどう考えるのかを大切にします」「歌詞に注目する場面をつくってみたいです」「子どもの頑張りに気付く目と声がけが身につくようでありたいです」など、明日の授業に向かって明るい希望が抱けたような、そんなありがたい感想をたくさんいただきました。

今年度は、これまでのべ１４０名の先生方が研修会に参加していただきました。毎回参加される先生もおります。今年度最後の第４回研修会は１月２９日（金）に予定しています。この紙面を見て興味をもった方、授業づくりや学級づくりに同じ悩みをもっている先生方と一緒に学びましょう！

参加申込は，12月11日発出の要項をご確認いただき、１月18日（月）までに東信教育事務所学校教育課長宛にメールまたはＦＡＸ（0267-31-0140）でお送りください。

考える
部屋

特別支援学級の担任と、通常の学級の担任との連携はどうやって？

Ａ小学校　特別支援学級の担任のＢ先生の悩み
「特別支援学級の子どもは、通常の学級の授業に参加して、学習することがあります。ねらいは年度当初に確認しスタートしましたが、忙しくて、その後、定期的に子どもの様子や支援の方法について情報共有して考える時間が足りないのが悩みです。」

【Ｂ先生の取り組み】

個に対する支援を同一歩調ですすめていくための支援カードを作成して回覧することで、端的に先生方との共通理解を図る。

① 個の支援カードに「得意なこと」「苦手なこと」を個別の指導計画の内容をもとに書く。
② 子どもの得意なことを参考にしながら、支援方法を３つ決め出して、カードに書く。
③ 関係する先生（例えば、通常の学級の先生、専科の先生、校長先生、教頭先生…など）に回覧して、必要に応じて、支援方法を書き加えてもらう。　ポイント
④ 回覧者には、最も効果的と感じる支援方法を３つの中から１つ選んで、おすすめ欄の☆を塗りつぶしてもらう。
⑤ 回覧後、カードを印刷して関係者に配付する。　ポイント
⑥ 支援を行った後、最もうまくいったと感じる支援に、実践者名を書く。
⑦ カード等から得られた内容を個別の指導計画に反映する。

● 個の支援カード

4年　1組　氏名　東信　花子さん　2学期

得意なこと１	花子さんは、視覚からの情報を得ることが得意
得意なこと２	先生に視線を向け、注目していることを確かめてから話しをすると伝わる
苦手なこと	長い説明や、たくさんのことを一度に伝えると、わからなくなる

支援方法A　おすすめ☆☆☆	支援方法B　おすすめ☆☆☆	支援方法C　おすすめ☆☆☆
・伝えたいことは板書する ・子どもに書いて机に貼ると、自分で確かめて取り組めています。	・話す前「話すよ」と予告し、花子さんが視線を向けてから話す ・「話をするよ」と予告する前に、3秒くらい待つと、他の子も注目するし、花子さんも周りを見て注目します。	・授業内容などを伝えるときには、短く、端的にする ・伝えたいことを、後からつけ加えると、わからなくなってしまうので、1回で短く伝える。
実践者名　支援学級◇◇　4年1組▽△	実践者名　4年1組▽△	実践者名　支援学級◇◇　4年1組▽△

（保管者氏名　支援学級◇◇）

今までは、時間がないということばかり考えていましたが、カードを回覧して共通理解をすることで、直接お話しする時も端的にやり取りでき、時間の短縮につながりました。
さらに、カードを先生方と一緒に作り上げていくことで、私が気づかなかった子どもの姿を知ることや、新たな支援方法を一緒に考えることができるよさも感じることができました。

B先生

Ｂ先生が参考にした資料
長野県教育委員会「みんなで支援　みんなが笑顔　第１集」第２章

Ｂ先生の取組のよさは、
① 必要な情報がカード内に端的にまとめられていたこと。
② Ｂ先生の思いを先生方にお願いするのみに終わらせず、一緒に考えることにつながったこと。
③ 情報共有や共通理解の時間短縮につながったこと。
です。このようなＢ先生の取組を参考にしてみてはいかがでしょうか。

☆ぜひお申し込みください

研修会のススメ

外国語教育　オンライン研修会

令和３年　中学校１月15日（金）　/　小学校１月28日（木）

「学習評価に係る研修

中学校：**文部科学省 山田 誠志 教科調査官**
小学校：**総合教育センター 藤森 美紀 専門主事**

☘ 上田市立第五中学校

自主的に録画し、振り返り、修正を加えていく生徒の姿にご注目ください。

タブレットを活用した授業実践です。生徒たちは、日本語を勉強しているゲストティーチャーに、自分が薦める絵本を「読んでみたい」と思ってもらえるように、あらすじや登場人物、薦める理由などについて話している様子をタブレット端末に録画します。そして、グループのメンバーと見合い、より相手に伝わり易く、興味をもってもらえるよう、表現や伝え方を修正していきます。

僕、今ちょっとアレンジしたよ！My favorite character ガラコ．Very cute．I like the story！

「いいところや、工夫したいところをタブレットで見返すことができるのがいい」

☘ 佐久市立野沢小学校

'Carrot is good for you.' 'It's in the green group.' など、話しながら表現を学んでいく児童の姿にご注目ください。

家庭科での学習内容を取り入れた教科横断的な授業実践です。

児童は、Small Talkで、自分ができる料理を友達に伝えたり、卒業記念のお泊り会を想定した夕食メニューのアイディアを、友達の好みや、栄養バランスに配慮しながら考え、英語を使って発表したりしていきます。少しずつ積み重ねてきた表現を使って、自分の考えを生き生きと伝え、相手に質問をしていきます。

何かね、唐突に英語が自分の口からでてきて、良かった。

「楽しかった！6時間目まで延長したい」

本研修会は、Zoomを使用した授業研究会及び学習評価研修です。参加される先生方にはあらかじめ「まなびすけ信州」に掲載されている小中学校の授業動画を視聴していただき、当日は授業をもとにしての意見交換を行います。
（申し込みの締め切りは、中学校が1月8日、小学校が1月21日です。
　詳細は、11月20日に学びの改革支援課から発出された要項をご確認ください）

生涯学習課　スポーツ振興

小諸東中学校１学年

「人権に視点をおいたボッチャ体験」の取組

「ボッチャ」　「車椅子」

「アイマスク」「手　話」

小諸東中学校１学年では、福祉体験学習を通して「思いやりのこころ」を育てるために４つの体験学習を行いました。その一つに、パラリンピック種目であるボッチャがありました。

先生の願い

身体障がい者のみなさんの生活や思いなど「他の人のこと」を「自分のこと」として考えられるようなボッチャ体験をさせたい。

生徒の思い

ボッチャ、やったことないけれど、本当にどんな人でもできるのかな？

「投球条件を工夫することで、身体に障がいのある方の感覚や思いを体験できるのでは！」

☆　利き手ではない手での投球　☆

☆　椅子に座っての投球　☆

生徒の感想

ボールを投げるときの加減がとてもむずかしかった。少し体の不自由な人の気持ちが分かった気がする。

座ってやると視線が安定して意外と投げやすかったけれど、想像していたよりも球を思い通りに投げることが出来なかった。

頭をつかうゲームだと思いました。作戦を話し合うことを通していろいろな人との仲も深まりとても楽しかったです。

障がいのある方の感じ方、見方に近づこうとルールを工夫したボッチャがありました。ボッチャというユニバーサルスポーツを通して、子どもたちは「思いやりのこころ」に触れました。

文責　生涯学習課　木下智宏